

乾燥汙紙血中抗甲状腺抗体測定による母子甲状腺疾患のスクリーニング

熊本大学小児科 松田 一郎
藤本 茂紘

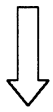
昨年にひき続き新生児マス・スクリーニングを終了した乾燥汙紙血中の抗甲状腺抗体を測定し追跡調査を行ったので報告する。

調査対象はマス・スクリーニングを終了した新生児 3,812 名の乾燥汙紙血を用いて抗甲状腺抗体を測定したが陽性者は 165 名 (4.3%) であった。このうち 77 組の母子が生後 (分娩後) 45.3 ± 12.7 日に外来受診した。男児 46 名, 女児 31 名で母親の年齢は 27 才 7 ヶ月 ± 3 才 11 カ月であった。児の生下時体重は 3,059 ± 334 g, 胎令 38.9 ± 1.6 週で、臨床症状は黄疸, 臍ヘルニア, 四肢冷感, 便秘の順に認められた。内分泌学的には 2 名がいわゆる一過性高 TSH 血症であったが, 75 名は euthyroid であった。しかし West' 症候群 2 名, 水頭症 1 名, 先天性胆道閉鎖症 1 名を認めた。次に児の抗体は生後 5 ヶ月でほとんどの者が陰性化した, 母親の抗体は上昇した。母親の中には 7 名 (9.7%) が以前に甲状腺疾患を有し, また家族歴に 5 名 (6.9%) の甲状腺疾患が認められた。臨床症状は易疲労性, 便秘, 多汗, 食欲不振の順に認められたが甲状腺腫が 30 名 (45.5%) にみられた。内分泌学的には 6 名が甲状腺機能亢進症, 1 名が低下症であったが亢進症の 5 名は分娩後 5 ヶ月で euthyroid になった。3 名が新たに亢進症に分娩後 4 ヶ月に認められたがこれも自然に euthyroid となった。低下症の 1 名は分娩後 6 ヶ月に症状出現のため治療を行った。

以上より新生児乾燥汙紙血中の 4.3% に抗甲状腺抗体を認めたが, これは母親由来と考えられた。追跡調査の結果, 2 名の児が一過性高 TSH 血症であり, 11 名の母親が postpartum transient hypothyroidism と destruction induced thyrotoxicosis と考えられた。また児で West' 症候群 2 名, 水頭症 1 名, 先天性胆道閉鎖症 1 名を認めた。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



昨年に引き続き新生児マス・スクリーニングを終了した乾燥炉紙血中の抗甲状腺抗体を測定し追跡調査を行ったので報告する。